



飛鳥に降る雪

奈良盆地ではそれほど雪が降らないので、積もれば写真でも撮りたくありませんね。今回は雪をテーマにした天武天皇の歌です。
勇ましいイメージがある天武で

わが里に大雪降り
大原の古りにし里に降らまくは後

訳

わが飛鳥の里に大雪が降っている。
おまえの住む大原の古びた里に降るのは、まだ後だろう。

天武天皇 卷二（一〇三番歌）

すが、歌が『万葉集』に五首収められています。まだ兄の天智が天皇だった時、別れた妻である額田王に「人妻ゆゑに我恋ひめやも」と歌う歌（巻一・二二番歌）。物思いにふけりながら吉野の山道を歩いたものだど、感慨深く思い出す長歌（巻一・二五～二六番歌）。そして、天武八年の「吉野の盟約」（持統と皇子たちを吉野に連れて行き、争いを起こさないと誓いを立てさせた）の折に詠まれた「よき人のよしとよく見てよしと言ひし吉野よく見よよき人よく見」（巻一・二七番歌）。以上四首は巻二「雑歌」という部分に収められています。

今回の歌は、天武の歌で唯一、巻二「相聞」（恋の歌）に入っています。五十歳弱の天武が二十歳弱の藤原夫人（鎌足の娘・五百重）と結婚しています。新しい飛鳥浄御原宮周辺に大雪が

降ったが、五百重の住む大原という

古びた里にはまだ降らないだろう、という自慢の歌です。ただここで重要なのは、天武の宮と大原（現・明日香村小原）はその距離およそ七百米メートルの近さ、いわば隣町で、宮から北東に見えるのです。

続いて藤原夫人は、「我が岡の霧に言ひて降らしめし雪の碎けしそこに散りけむ」（わたしがこの岡の龍神に言いつけて降らせた雪の碎けたのが、そこにちらついたのでしよう／巻二・一〇四番歌）と負けずこたえています。

二人の間には天武にとって十番目の男子、新田部皇子が誕生しますが、この歌と誕生の前後関係は分かりません。初々しさを感じる気もしますが、どうでしょうか。

言い合いながらも和やかな二人と、美しい雪の日が想像されます。（本文 万葉文化館 阪口由佳）



明日香村役場
☎0744-54-2001



大原神社（明日香村）
藤原鎌足の誕生の候補地の一つとされている明日香村小原にある大原神社。
境内には今回紹介している天武天皇と藤原夫人の歌の万葉歌碑があります。

万葉ちゃん

つぶやき

和歌に関連するものを紹介するよ！



万葉ちゃん